



三題噺「乞食」と「交通整理」と「保険」

藤岡長敏

おことはり

本誌の編輯部では、「何か變つたやり方を」と、考究して居られる際ではあるし、酷暑の候でもあるししますから、例に依つて面白くもない交通整理のことでもあるまいと思ひまして、右の様な題目を選びました。と云つて此の記事の内容が例を破つて面白いと申すのでは毛頭ございませぬ。乞食と交通整理と保険との關係を、述べやうと致しますれば、自然三題噺の様なものになつてしまひますし、せめて標題でも變へると、多少ジヤナリズムが加味せられるだらうと、考へたまへてのこととてございます。

昔南アメリカの一地方で、クローバーが非常に繁殖した  
れはお婆さんが多くなつたからだ』と發表して、世間をア  
ことがあつたさうです。その原因を探究してゐた學者は、『こ  
ツと云はせたと云ふことであります。お婆さんが多くなる

と、何故クローバーが繁殖するかと申しますに、その學者は『お婆さんが多くなると、その愛好物たる猫が多く飼育せられる様になる。猫が多くなると蜜蜂の強敵である鼠が少くなる。鼠が少くなれば自然蜜蜂が多くなる。蜜蜂が多くなればクローバーの花粉の媒介が好くなる爲、其の繁殖が助けられる』と云ふのださうです。之に類似した論法で吾が國にも『大風吹けば桶屋が喜ぶ』と云ふ諺がございます。しかし交通整理と乞食との關係は、『お婆さんとクローバー』『大風と桶屋』の様な、廻りくどいものではないのであります、もつと密接な關係があるのであります。

ロンドンでは昔非常に乞食が多くて、道行く人々は少からず惱されたものださうでございます。一八二九年四月五日のオブザーバー紙は、『議事堂からチャリング・クロスにかけて、毎夜實にづう／＼しい乞食が、列を爲してゐるのは、正に帝都の恥辱と云ふべきである。』と論じてゐるし、エリヤと云ふ人は『乞食に對する不平』と題する論文を發表してゐるくらゐですから、相當ひどかつたものと想像せ

られます。斯くの如く乞食が多くて、往來の人々を惱して居るのを、そのまゝに放任して置いては、馳て街の繁榮にもかゝはると云ふので、オツクフォード・ストリート及びボンド・ストリートの商人達は組合を組織し、『道路番人』<sup>ストリート・キーパー</sup>と云ふものを置き、乞食を追拂はしめ、併て通行の人々の世話をさせたことと云ふことであります。一八二九年にロンドンに警視廳が新設せられまして、ストリート・キーパーの職務は、警察官の手に依つて行はれることになりました。ところが、警察官は警邏に立番に、往來の人々の安全を計ることが、その本然の任務であります爲、通行の人々を惱す乞食を追拂ふと同時に、自然交通を整理し監視し、且つ之を指導するの任に當らなければならなくなりました。それ故一八三九年には、警視廳<sup>スコットランド・ヤード</sup>條例が改正せられ、交通を整理することも亦、警察官の任務の一であると云ふことを、明示的に規定せられる様になりました。之がおそらく交通整理が警察官の手に依つて、爲される様になつた始りであらうと云はれて居ります。現今に於きましては、世界各國

の大都市の警察事務中、交通警察はその主要なる部分を占めて居りまして、交通整理と申しますれば、自動車の整理をすることであるかの如く考へられて居りますが、今から百年程前は、乞食を對照として交通整理が行はれたのであります。

彼の産業革命は、紡績機械の發明に依り、その端が發せられました様に、自動車と云ふものが出現致しまして、街路交通に革命が齎されたと、私共は申して居ります。全く現在の都市の大部分は、數百年乃至數千年前に形造られたものでございまして、従つてその街路は、今日の様な交通を豫想して計畫せられては居りませぬ。その街路にあの形態の大きい、速度の速い自動車と云ふものはいつて來てしかも主要なる交通機關の位置を占めたのでございますから、交通は混雜せざるを得ませぬ。道路が所要の交通を收容し得なくなつた状態を、道路が老衰したと申します。『道路の改良』は、その老衰した道路に對する若返り手術に、相當すると思ひます。

都市に於ける街路は、屢々喩へられます様に、人體に於ける血管でございます。街路はそれを通じて、都市の繁榮に缺くべからざる物質、原料及び人の輸送が、行はれますし、血管はそれを通じて、人の生活に必要な營養が行はれるのであります。都市も亦人體と同じく、年々歳々生長して行くものでございますが、その血管である街路が老衰しその血液の循環たる交通が、圓滑に行はれない様になりますれば、その都市は人體に於けるが如く、動脈硬化の症狀が表はれて來まして、生長が止り衰弱に陥つて參ります。道路の改良が若返り手術だと致しますれば、街路と云ふ血管の中に於て行はれる血液の循環たる交通を整理し、その圓滑を計することは、丁度按摩を施す様なものぢやなからうかと存じます。斯様に考へて參りますと、交通整理はまんざら乞食にも、按摩にも縁のないものであるとは申されませぬ。

昔のことはいざ知らず、現今に於きましては、交通整理は自動車を對照として、行はれてゐると云つても、差支へ

はありますまい。實際自動車に依る交通事故の爲、死傷する人は毎年夥しい數に上るのであります。アメリカ合衆國などに於きましては、彼の世界大戰に参加したことに依つて拂つた犠牲よりも、その年に國內に於ける交通事故に依つて生じた犠牲が、二倍以上もあつたと云ふことであります。それ故此の國に於きましては、交通事故に依つて浪費せられる國力を、若し蓄積することが出来れば、如何なる國難にも處することが出来ると云ふ見地から、交通事故防止の問題を、國防問題として論議せられたことがあるくらゐであります。

歐米に於きましては、保險思想が普及して居りますので多數の人が多少に拘らず、保險に加入致して居ります。それでこんなにも多くの人が、交通事故に依つて死傷致しますと、第一傷害保險及び生命保險屋さんがたまりませぬ。のみならず自動車の使用者の大部分は、所謂自動車保險に加入して居りますので、此の方の保險屋さんも、そのまゝで放任して置く譯には参りませぬ。交通事故の多い都市に於

ける保險料金を引き上げるとか、交通整理の設備の促進運動をするとか、躍氣になつて對策を考へなければなりません。現にアメリカ合衆國の自動車保險協會では、專屬の試験場を作りまして、毎年造られる新型の自動車に就き、嚴重な試験を行ひ、安全率の高い車の保險料を割引する外、交通整理の設備が完備してゐる都市に於きましては、特に保險料を割引すると云つた様なことを行つて居ります。保險料の安い車は自然實行きが好いので、自動車製造業者の方でも、なるべく保險屋さんの氣に入る様な、安全率の高い車を製造することに努力致しますし、自動車の使用者の方でも、なるべく自分の住んでゐる町の保險料は安いことを希望致しますので、當局に對して交通整理の設備を、完全にする様に促します。斯様な状態でありまして、歐米殊にアメリカ合衆國に於きましては、保險と交通整理との關係は、交通整理と乞食との關係以上に、ほんとうに密接なものになつて居るのでございます。